

## 7) グローバリゼーション部門

### 山崎幹根（教授・地方自治論）

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

第一に、当該年度の前半はスターリング大学において在外研究を行い、その期間中、5月にスコットランド議会選挙が、6月にはEU離脱を問う国民投票が行われ、これらのキャンペーンの現地調査および政治過程の考察を行った。特に、EU離脱を問う国民投票の結果が、イングランドとスコットランドとの間の差異を拡大させており、スコットランド独立運動を中心に今後の動向に注目する必要性を認識した。本件に関する成果として、「連合王国の統治機構—特異な主権概念と不均一な権限移譲」『立命館言語文化研究』第28巻第4号、および「躍進を続けるスコットランドの地域政党 SNP と EU 国民投票のゆくえ」『世界』884号を発表した。

第二に、今年度よりタバコの規制政策の日英比較研究を開始したが、在外研究期間中、スターリング大学のポール・ケアニー教授と、分析視角の設定、方法論、検討事例の設定方法に関する意見交換を重ねた。本件に関する成果として、‘Devolution and Policy Change: The Two Cases of Smoking Ban in the UK and Japan’ と題する研究発表を行う機会を持った、また、現在、ケアニー教授と共著論文を執筆しており、学術雑誌での発表を目指しているところである。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

現在、国が主導してすすめている地方創生に関する政策についての各種調査を行い、総合戦略策定、交付金の交付手続、各事業の執行過程に関する課題を明らかにした。その中で、国の地方自治体に対する指示や、交付金の交付方法における問題状況が明らかになった。本件に関する成果として、東神楽町主催の『まちづくり講演会：町制施行50周年記念連続講座』において「これからの地方自治—地方創生を超えて」（2017.1.20）と題する講演を、道北地域地方自治研究会が主催する土曜講座において「地方創生その先に見えるもの」（2017.1.21）と題する講演を行った。

その他（教育活動ほか）

後期に、法学部で「地方自治論」（講義）を、大学院法学研究科で「比較政府間関係論」（演習）を担当した。また、国際交流活動への貢献の一環として、日本スコットランド協会（Japan Society of Scotland）が主催した講演会で、‘Missing or Promising Frontier? —The possibilities and problems of Hokkaido—’ と題する講演を行った（2016年5月2日、エディンバラ大学）。さらに、JICAが主催するフィリピン・ミンダナオ島の開発協力事業において、戦後北海道開発政策の意義と教訓を講義および講演する機会を持った。‘Lesson Drawing from Hokkaido Development Policy’, Knowledge Co-Creation Program (Young Leaders) 2016, Comprehensive Regional Development Planning: A Course on Mindanao Regional Development, Davao, Philippines, (2017.3.7). 在外研究の成果の公開として、北海道地方自治研究所が主催する北海道自治のかたちを考える研究会にて「2つのレファレンダムとイギリス・スコットランド政治の課題」（2016.12.13）、北広島市議会議員研修会に

て「イギリスの国民投票とこれからの地域政治」（2016.12.16）についての講演を行った。また、社会貢献活動の一環として、斜里町議会主催の研修会において「議会の役割・モニターの役割」と題する講演を行った（2017.1.27）

#### 論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
領域における独自性と自立の可能性と課題－沖縄と北海道との比較から	年報行政研究 第51巻	2016	23-42
連合王国の統治機構－特異な主権概念と不均一な権限移譲	立命館言語文化研究 第28巻第4号	2017	183-192
躍進を続けるスコットランドの地域政党 SNP と EU 国民投票のゆくえ	世界 884号	2016	25-28

#### 学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
Devolution and Policy Change: The Two Cases of Smoking Ban in the UK and Japan	The European Conference on Politics, Economics and Law 2016, The International Academic Forum,	2016.7.8	Brighton, UK